読む・書く力と学ぶ力をはぐくむ
小・中学生専門教室
ことのば通信
http://www.kotonoba.jp/
Vol.005 since 2016

国語の勉強って、どうさせたらいいんだろう？

■国語力は、これからますます重要になる！

2020 年の大学入試改革をにらんで、すでに福岡県立高校の入試でも文章による解答を求める出題が増えてきています。

学力の基本は国語力にあることについて反論はないでしょう。そして今後ますます**国語力抜きにして学力を語ることができない時代**になってきます。

また、国語力さえあれば将来も困ることはないとすら思える時代になってきています。何しろ、あらゆることに関する情報や教材が、無料あるいは格安で手に入る時代ですから。

小学校時代にケアすべきは国語力だけでいいと行っても過言ではありません。むしろ、そこを置き去りにして、知識やテクニックを仕込むのに精を出しすぎると後で子どもが苦労することになります。

■なぜ、小学校時代に国語力のケアが必要なのか？

実を言うと、学校にも塾にも**「国語の力を伸ばすメソッド」がない**んです。

受験が間近に迫ってきて「大事なのは読書習慣です」などと救いのないアドバイスが飛び出て撃沈ということも…。

他の教科は短期間に、ある程度の成績アップも可能です。ただし、その**成績アップの限界を決めるのが、結局のところ国語力**。単純暗記、短答式の解答で済まなくなって来ているわけですから。

最近、塾の先生方からも、保護者の方からも、塾に学習システムを入れている ASP 本部からも、切実な問題として相談されるのは「国語指導」の方法論なんですよ。

■そもそも「国語力」とは何か

究極的には**「文章を読んで相手の意図を理解し、それに対して求められるリアクションを言葉もしくは行動で返すことができる力」**です。

文部科学省の定義に従えば、その中核にあるのは

> 考える力，感じる力，想像する力，表す力から成る，言語を中心とした情報を処理・操作する領域

です。これだと抽象的で何のことやら分かりづらいので、もう少し分解して具体的に整理すると、以下のようになります。

■入力段階で求められる力・スキル

- 語彙力（言葉、漢字）
- 文法・語法といったミクロレベルの読解力
  （文・文章を理解する力）
- 構成を把握するようなマクロレベルの読解力
  （文章を理解する力）

■処理・出力段階で求められる力・スキル

- 論理的思考力（分析力，論理構築力など)、感性・想像力といった理解力
- 伝わる論理と表現を選び、言葉・文字として表現する文章表現力

■超短期的「国語の定期テストの点数」の上げ方

本来、国語力というのは質をケアしながら「読書量」によって養っていくべきもの。それについては別の機会に語ることにして、ここでは中学校の定期テスト対策に絞って紹介します。

「国語が苦手」という生徒の点数を短期間で手軽にアップさせるのは意外と簡単です。

なぜなら国語に苦手意識を持っている生徒は、その苦手意識と「国語って、どう勉強していいか分か

らない」という思い込みもあって、あまり勉強をせずに試験に臨んでいることが多いからです。

私が国語指導で取り組ませるのは、次の 3 つのみ。これだけで定期考査の点数が 20-30 点くらいは簡単に上がります。

1.国語のテキストの音読

「えっ？それだけ？」と驚かれそうな話ですが…。実際、国語が苦手な子は、基本的に教科書を読みません。それをケアするだけで成績が上がります。

では、何回くらい読ませたらいいのか？ —— スムーズに抑揚を付けて読めるようになるまで何度でも、が基本です。

3 回読んだところで、**接続詞**を○でかこませ、**指示語**に傍線を引かせます。その上で音読続行。接続詞の前後のつながりと、指示語が指している言葉や表現を意識させてください。

2.漢字のトレーニング

試験範囲の漢字一覧を用意します。一覧がなければ自分でノートに書き出させましょう。「憂いる（うれ・いる）」というように「漢字・読み方」の順で、できるだけ大きく丁寧に。

その段階ですでに問題なく書ける・読める状態のものには「✓」を付けます。これは学習対象から外す、というマーク。

最初に「読み」の学習。下敷きなどで「読み」の部分を隠し、漢字を見て瞬時に読みが出てくるかチェックします。見た瞬間に読みが浮かべば「学習終了」ということで✓を入れます。

次に同じように漢字を隠して、**読みを見て漢字が浮かぶか**チェック。**書く必要はありません**。

この「漢字→読み」「読み→漢字」を何度も繰り返し、すべてスムーズに漢字も読みも出てくるようになったら、ようやく「書き取り」です。

「漢字→読み」「読み→漢字」のどちらもスムーズに書けて正解できたら終了です。

間違えた問題は「正」で回数を記録しながら、何度もやり直しましょう。ただし、ある程度時間をおいてから。

3.学校指定のワークを使った読解の演習

国語の試験で問われる読解力というのは、かなりのレベルで「技術」として学ぶことができます。

それを、学校の（試験範囲に指定されている）ワークの問題を使っておこないましょう。

答えを単純丸暗記するのではなく、解き方とそのポイントを理解させることが重要です。

スムーズに解けない問題で頭をひねって時間を無駄にせず、すぐに解説を読みます。「なるほど、だからここを選ぶのか！」という具合に、**解説を読みながら答えを記入するだけ**で OK。

2 回目以降は、答えだけでなく**解き方のポイントを思い出しながら**、求められるフォーマットで解答する練習をします。

合計で 3-4 回繰り返して、すべての問題を躊躇せず正答でき、しかもその解き方（説明）を思い出せるようであれば終了です。

■長期的な国語力アップは読書とセットで

定期テスト対策であれば、これだけの作業でも十分に得点アップが可能です。とはいえ、これはあくまで「短期的なテスト対策」に過ぎません。

長期的には読書習慣を付けさせるのとセットでおこなうのが王道です。それについては、また別の機会に。

■コラム執筆者：寺田　昌嗣（てらだ　まさつぐ）
福岡高校、名古屋大学・法学部卒。元公立高校教諭（公民科）、中学校進路指導主事。
現在は、西南学院大学の読書講座（通年）や社会人向けの速読技術指導、司法書士スクールでの高速学習法指導など、「読書・速読」と「効果的な学び方」の指導をおこなっている。
2008 年にはベネッセ中 2 コースの特集記事の監修も。
2016 年春に高取商店街に読書＆学習教室「ことのば」をオープン。学習のセカンドオピニオンとして個別の学習相談を受け、その子にあった学習法指導をおこなっている。遠く山口県や福岡県筑後市など遠方から通って来る中学生も。

☺「勉強してるのに成績が伸びない」、「小学校時代にどんな勉強をさせたらいい？」といった悩みがあれば、いつでも気軽にご相談ください！